

# 景気景況調査報告

(第27回)

令和4年 7～9月期 実績

令和4年 10～12月期 見通し

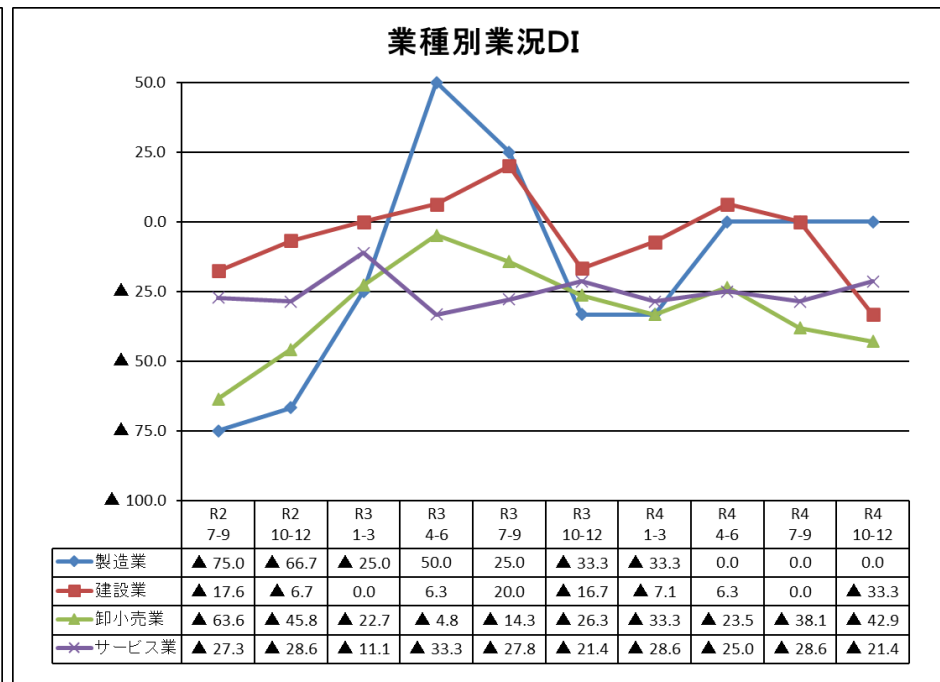
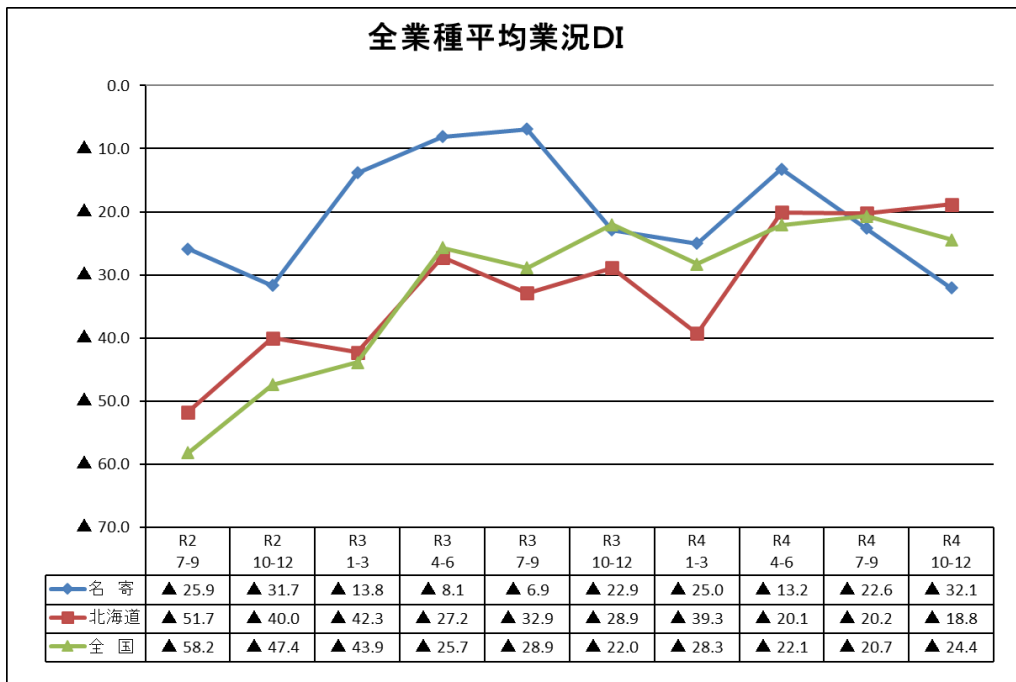
令和4年10月

名寄商工会議所

## I 調査要領

- ①調査対象期間 令和4年7～9月期の実績及び令和4年10～12月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 119社

## II 調査結果

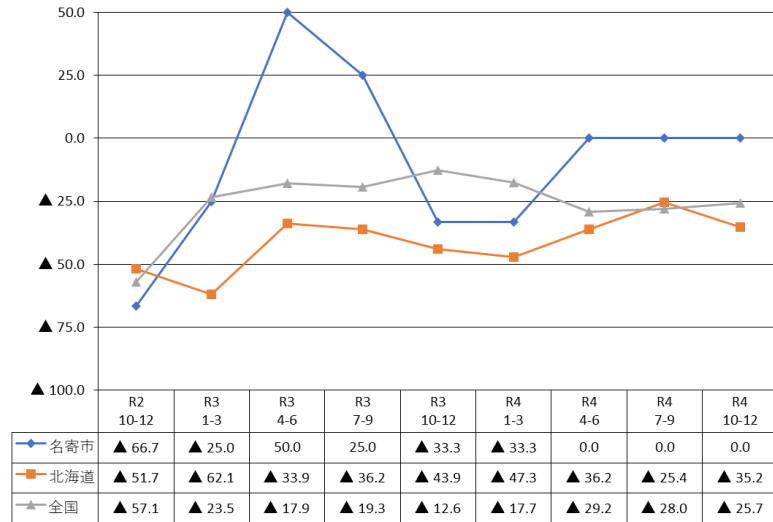


※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

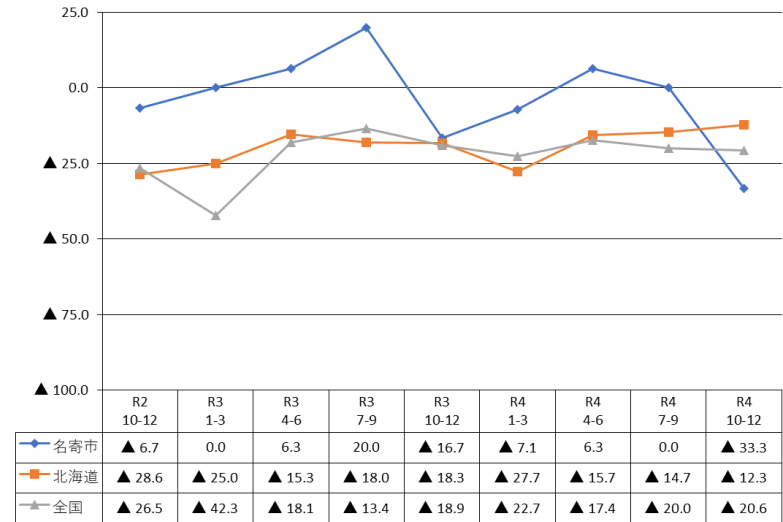
- ・今期、全業種平均で▲22.6ポイントと前回調査と比べ9.4ポイント悪化となっている。
- ・見通しでは今期と比べ9.5ポイント悪化となっており、ウクライナ情勢悪化、円安、原料高騰等が見られる。
- ・北海道（道商連調査）の景気を比較すると、今期0.1ポイント悪化となり、見通しではマイナス幅が縮小する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気を比較すると、今期1.4ポイント好転となり、見通しではマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・今後のコロナ再燃についての心配も見込みからみられる。
- ・業種別の見通しでは建設業が大幅に悪化傾向となっている。

# 業種別業況DI

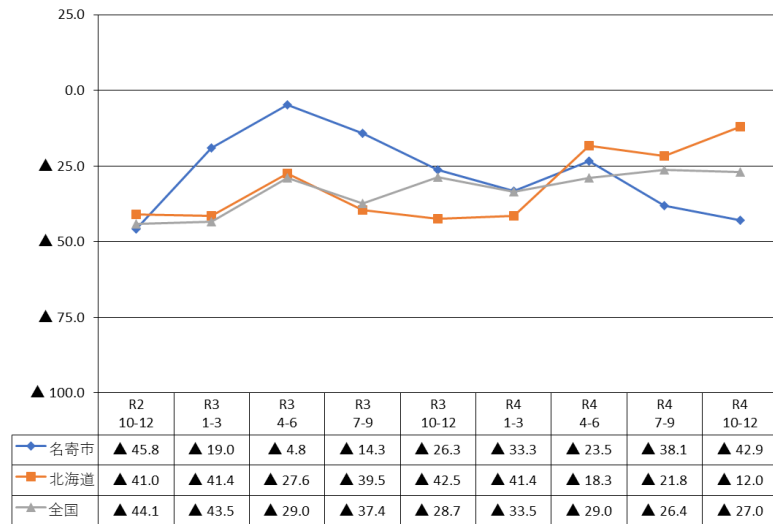
## 製造業 業況DI



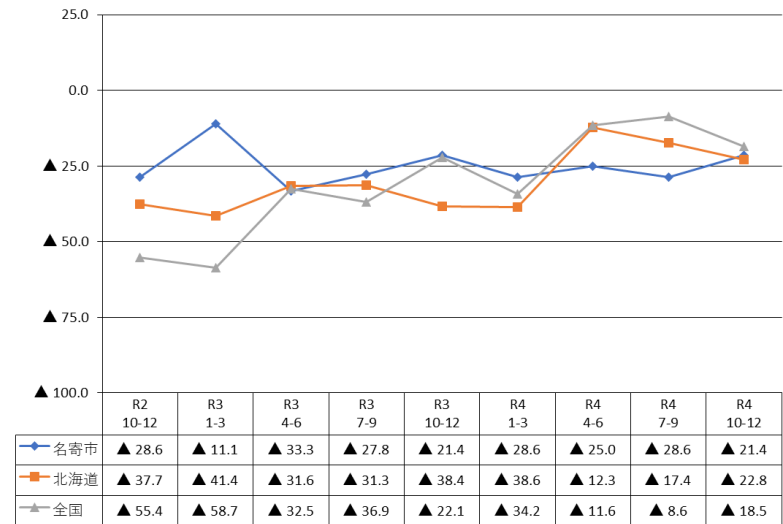
## 建設業 業況DI



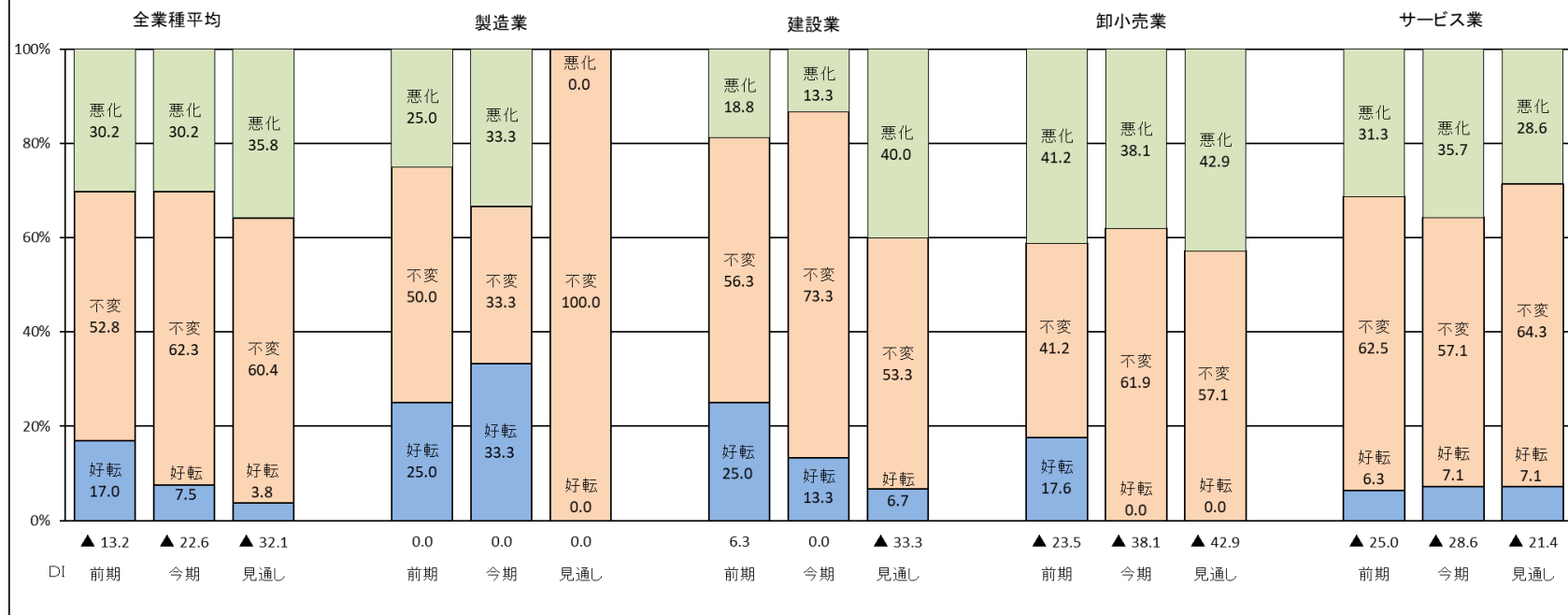
## 卸小売業 業況DI



## サービス業 業況DI



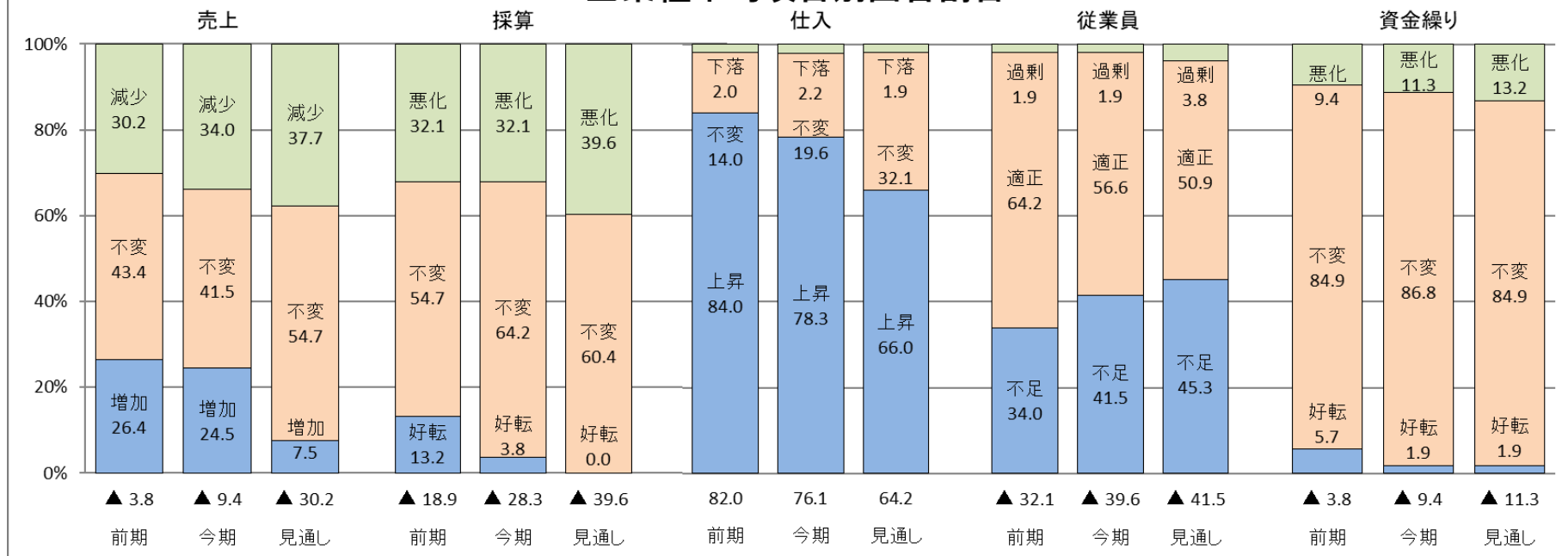
## 業種別業況回答割合



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期、好転・悪化の回答はあったが、見通しでは不変となっている。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」は5.5%減少しており、「好転」も11.7%減少している。  
見通しでは「悪化」が26.7%増加し、「好転」は6.6%減少となっている。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が3.1%減少しており、「好転」の回答はない。  
見通しでは「悪化」が4.8%増加し、「好転」の回答はない。  
悪化の要因として、コロナ再燃やウクライナ情勢悪化、円安、原料高騰等がみられる。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が4.4%増加しており、「好転」は0.8%増加となっている。  
見通しでは「悪化」が7.1%減少し、「好転」の変動はない。  
全体的に人口減少・仕入運賃増加・ウクライナ情勢による影響・円安・お客様の減少・若年層不足・求人難  
仕入単価増加・コロナの見通し不透明等々の要因が挙げられている。

## 全業種平均項目別回答割合



### 売上 DI [減少の要因]

今期▲9.4ポイントと前期より5.6ポイント減少となっている。見通しではさらに20.8ポイント減少となっている。  
 ・ 資材の値上げ ・ 消費者の買い控え ・ 物価高 ・ 物流の遅延 ・ 事業の減少 ・ 客単価減

### 採算 DI [悪化の要因]

今期▲28.3ポイントと前期より9.4ポイント減少となっている。見通しではさらに11.2ポイント減少となっている。  
 ・ 資材高騰 ・ 利益率の悪化 ・ 固定費の増加 ・ メーカーの大幅値上げ ・ 原油価格の増加

### 仕入 DI [上昇の要因]

今期76.1ポイントと前期より5.9ポイント減少となっている。見通しではさらに11.9ポイント減少となっている。  
 ・ ウクライナ情勢の影響 ・ 仕入運賃の増加 ・ 原材料の上昇 ・ 円安

### 従業員 DI [不足の要因]

今期▲39.6ポイントと前期より7.5ポイント減少となっている。見通しではさらに1.9ポイント減少となっている。  
 ・ 高齢化 ・ 人口減少 ・ 若年層の減少 ・ 求人難 ・ 退職者増 ・ 仕事量の減少 ・ 職人不足

### 資金繰り DI [悪化の原因]

今期▲9.4ポイントと前期より5.6ポイント減少となっている。見通しではさらに1.9ポイント減少となっている。  
 ・ 売上減少に伴う減少 ・ 品不足 ・ 新型コロナウイルスの影響 ・ 先行不透明 ・ 円安